

2021.05.30. 聖書の学び
なぜ私たちは後退するのか
新約聖書へブル人への手紙 2章 1～18節

おはようございます。日曜日の朝の第二礼拝による。日曜日には二つの礼拝があります。第一礼拝は、聖書の預言のアップデートで、第二礼拝は、神の御言葉を一節ごとに学ぶもので、現在「へブル人への手紙」に入っています。素晴らしき書「へブル人への手紙」です。先週は第1章を終え、今日は、主の御心なら、第2章を学び終える予定です。この場にいる皆さん、もし可能であれば、お立ちください。私が読みますので、ついてきて下さい。無理な方は、座ったままで結構です。オンラインの方もご一緒にどうぞ、1節からです。

へブル人への手紙 2章 1節

- 1 こういうわけで、私たちは聞いたことを、ますますしっかりと心に留め、押し流されないようにしなければなりません。
- 2 御使いたちを通して語られたみことばに効力があり、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたのなら、
- 3 こんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、私たちはどうして処罰を逃れることができるでしょう。この救いは、初めに主によって語られ、それを聞いた人たちが確かなものとして私たちに示したものです。
- 4 そのうえ神も、しるしと不思議と様々な力あるわざにより、また、みこころにしたがって聖霊が分け与えてくださる賜物によって、救いを証ししてくださいました。
- 5 というのも、神は、私たちが語っている来たるべき世を、御使いたちに従わせたのではないからです。
- 6 ある箇所で、ある人がこう証ししています。【彼は「詩篇」を引用しています】『人とは何ものなのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたがこれを顧みてくださるとは。』
- 7 あなたは、人を御使いよりわずかの間低いものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせ、「万物を彼の足の下に置かれました。』神は、万物を人の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。
- 8 それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのを見てはいません。
- 9 ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見ています。イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。
- 10 多くの子たちを栄光に導くために、彼らの救いの創始者を多くの苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の存在の目的であり、また原因でもある神に、ふさわしいことであったのです。
- 11 聖とする方も、聖とされる者たちも、みな一人の方から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせずに、こう言われます。
- 12 『わたしは、あなたの御名を兄弟たちに語り告げ、会衆の中であなたを賛美しよう。』
- 13 また、『わたしはこの方に信頼を置く』と言い、さらに、『見よ。わたしと、神がわたしに下さった子たち』と言われます。

14 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、

15 死の恐怖によって生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。

16 当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださるのです。

17 したがって、神に関わる事柄について、あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それで民の罪の宥めがなされたのです。

18 イエスは、自ら試みを受けて苦しめられたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです。

祈りましょう。よろしければ一緒に、私たちが理解できるように神の祝福を、お願いしましょう。

愛する天の御父よ、私たちはあなたの御言葉と、ヘブル書にあるこの章に、とても感謝しています。

主よ、私たちが今日ここにいる理由は、あなたとあなたの御言葉に飢え渴いているからです。人はパンだけで生きるのではなく、神である、あなたの口から出るすべての御言葉によって生きることを知っているからです。(マタイ 4:4 参照)

そして、ここにもあります。これは主よ、あなたの御言葉です。そして、私たちの飢え渴きを満たしてくださるのは、あなたの御言葉です。主よ、今日ここで、あるいはオンラインでご覧になっている方の中にも、本当に苦悩の中にいる方、大変な思いをしている方がたくさんいらっしゃると思います。主よ、あなただけが御業で、私たちを導き、御言葉を通して、私たちの人生に語りかけてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

着席して下さい、ありがとうございます。今日は、なぜ私たちクリスチャンが簡単に、おそらくもっと重要なことですが、不必要に後退してしまうのかについて、お話ししたいと思います。えっ、その話は聞きたくない? というか、ここにいるということだけで、かなりの高い確率で、皆さん後退していないと言えます。ですからこれは、誰か他の人のための話です。実際、この章の内容ではないのですが、その章は実際は、後退している人についてではありませんが、確かに、そのような人にはふさわしい御言葉となり得ます。しかしこれは、私たちが主から離れ、生ぬるくなり、主の近くを歩まなくなることが、いかに簡単にあり得るのか、ということについて、主からの注意喚起であり、警告と言えるかもしれません。

簡単になりうるのです。つまり私たちが、何の努力をしなくても。これがまた、この「ヘブル人への手紙」のこの章の内容です。なぜこのようなことが起こるのか、三つの理由を見つけることができました。もっとたくさんあるかもしれませんが、なぜ、またいかにすぐに後退してしまう事がこれほど簡単に起こる理由は三つあります。第一の理由は、私たちが主の賜物を軽んじるからです。1 から 4 節では、ヘブル書の著者は、押し流されないように、神の御言葉に、深く注意を払うことの重要性を強調しています。あなたが、神の御言葉に深く注意を払わなければ、必ずこのような結果になるからです。このようなことが、必ず起こるのです。すなわち、主と、主のものに対して後退し、押し流され、熱意の喪失をしてしまうのです。次のように説明しているのが、興味深いですね。彼は「天使を通して語られた律法を破った者たちが、その結果や罰を免れなかったのなら、[彼は修辭的に尋ねています]これほど偉大な救いを無視した私たちは、どうやってそれらを免れるのだろうか?」と言っています。さて、なぜそのような言い方をしたのでしょうか? それは、新約聖書の原語ギリシャ語にある、「無視」という言葉と関係があると思います。この言葉には、何かを放置する、何かを軽視する、無視する、という意味が込められています。ここ

で、さらに興味深いことがあります。それはイエスが、「マタイの福音書 22 章」で使っておられる言葉と同じです。1 節から 5 節を読んでみましょう、聞いてください。これは、皆さんもよくご存知のたとえ話です。

マタイの福音書 22 章

1 イエスは彼らに対し、再びたとえをもって話された。

2 『天の御国は、自分の息子のために、結婚の披露宴を催した王にたとえることができます。

3 王は披露宴に招待した客を呼びにしもべたちを遣わしたが、彼らは来ようとしなかった。

4 それで再び、次のように言って別のしもべたちを遣わした。『招待した客にこう言いなさい。「私は食事を用意しました。私の雄牛や肥えた家畜を屠り、何もかも整いました。どうぞ披露宴においでください」と。』

5 ところが彼らは気にもかけず、ある者は自分の畑に、別の者は自分の商売に出て行き、

ここに、なぜ後退がこんなに簡単に、何の苦勞もなく起こるのか、その答えがあります。それは私たちが、それを気に留めず、無視してしまうのです。なぜ私たちはそれを無視するのでしょうか？ 私たちは、無価値なものをないがしろにします。同意されますか？ つまり、本当に大事にしていたら、絶対おろそかにはしないはずですよ？ そんなに偉大な救いが、本当に価値のあるものならば、私たちは感謝して優先するはずですよ。例えて言えば、かつて明るく、激しく燃えていた火が消えてゆくのは、ただ放置するから、火は消えるのです。煽らなくてもいい。放っておこう。必要ない、そして消えていく。それはまさに、私たちに起こることです。もし私たちが本当に、主がなさるように心を配っていたなら、主が心にかけてくださっているような、偉大な救いに、心を配っていたなら。主が、私たちのことを心に留めてくださっているのを知っていますか？ 人間とは、何者なのでしょう？ ちなみに、それは「詩篇 8 篇」です。数えきれないほど、主は心を砕いてくださっているとされています。主が私たちへ、いかに気遣ってくださっているのかを、数えることはできません。それだけ、私たちのことを考えてくださっているということです。私たちの理解を超えています。私たちはこのように言います。「それを理解することができません。」しかし、神には可能です。誰が主の御心を分かるのですか？ 主は私たちのことをとても気にかけてくださっています。私たちも神に、些細なことにでも心を向けられるように願います。それが神が、私たちになさっていることで、事実そうしてくださっているのです。このように考えてみてください。あなたは救われたのです。聖霊によって新生した人、あなたは、救われているのです。あなたが主の御名を呼び求め、心で信じ、口で告白し、罪の赦しのために主に信頼を置いて、生まれ変わったとき、あなたの永遠の命はそのときから始まったと信じ、理解していますか？ 私にとって、38 年前の話です。38 歳に見えないことはわかっています。[笑] しかし、それは私の新しい誕生日、霊的な誕生日であり、私の新しい人生、主において私の永遠の人生の最初の日でした。この意味がわかりますか？ つまりもし私が生きていて、本当にそうなるそう信じていますが、ラッパが鳴ってキリストにある死者が最初によみがえるときに、生きて残っている者の中に入ることができるのです。そして、パウロが言っているように、

「生きて残っている私たちが、引き上げられ（携挙されて）、空中で主と会い、いつまでも主とともにいることになります。」（第一テサロニケ 4:17）

これは「絵に描いた餅」ではありません。ダジャレではありません。私たちは、空中で主と会うのです。先に亡くなった、愛する人たちはどうなのですか？ 彼らはまず、新しい栄光の体を手に入れるのです。

彼らが先に天に上り、それから、私たちも空中で彼らに会うのです。ほ～ さて、私がそのような話を
する理由は、もし私たちが本当にそのことを理解し、そのような偉大な救いに価値を置くなら、それが、私
たちの人生の生き方に影響を与えるのは当然のことではないでしょうか？ 少し前のことですが、私は
本当に辛い時期がありました。あなたは、そのようなことはないでしょう。私よりも霊的に強いでしょう
から。でも私は、蹴っ飛ばし、奮闘し、嘔みつき、掻きむしって、「主よ～～！」と、叫んでいました。
主だけがお出来になられ、いつもご忠実であるように、聖霊の静かで小さな声で私に質問されました。

「あなたは救われていますか？」「どういう意味ですか？？」もちろん、救われています。」それに対して
返答が来ました。「では、そのように行動しなさい。」「あなたの行動は、救われているようには見えませ
ん。」「救われているように振る舞いなさい。なぜ怖がっているのですか？」「なぜなら、これは良くない
ですよ～～。」「待って、あなたは救われているんですよ？」「はい、そうです。」先週見たように、私た
ちには、受け継ぐべき相続財産が待ち受けています。私たちは、ある種の特権を持っていると言っても
いいかもしれません。「E」言葉は使いたくありませんが、あなたはその言葉を知っているでしょう？ 使
いたくありませんが、使ってしまった。 ”有資格者/Entitled”しかし私たちは、このような偉大な救
いを受け継ぐ者として、今ここで、ある種の権利を与えられているという意味では、そうなのです。私た
ちのものとなるという、約束通りに。「ローマ人への手紙 8 章 28 節」にある、恐らくお馴染みすぎる、
あの約束通りです。是非、一緒に考えてみてください。「[ローマ人への手紙 8 章 28 節](#)」の、この約束に
ついて考えてみてください。

私たちは”知っています。”願望ではなく、望みでなく、信じるのでなく、知っているのです。すべてのこ
とを”知っている”のです。ほとんどでもなく、一部でもなく、大多数でもありません。すべてのことが、
益となることを、私たちは”知っています。”そうなんですか？ そうです。私にも？ そう慌てないで。
何が言いたいのか？ ああ、それは権利を持っている人だけなのです。お～ 権利がある？ はい、そうで
す。信じた方がいいですよ。なぜならそれは、神のご計画に従って召された人々、神を愛する人々だけに
与えられるものだからです。あの約束は、そういう人のためのものです。私たちが召されている、あるい
は、権利を与えられているこの目的について、少しだけお話していいでしょうか。それは、実は次の節に
あります。細かい文字（小文字説明書き）のようなものです。アプリをダウンロードしたり、購読したり
するときに、利用規約を読まなければならないことってありますよね？ 1,572 ページもあれば？ [笑]
皆さん、私と同じことをするでしょう？ ”すぐ”同意します”をクリック！！ 今、何に同意したかわかり
ますか？ 知りたくないでしょう。良いものではないありません。これは条件付きの約束です。条件がある
のです。なぜなら、もしあなたが神のご計画に従って召された者であるならば、神のご計画とは、この[29
節]にある、「御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められた」ことです。それが利用規約、細則だと知っ
てましたか？ イエス・キリストの姿に似せられることの意味が分かりますか？ さて、ここからが本
題です。あなたが経験している苦難の目的は、あなたを、よりイエスに似せるためだということです。さ
て、もしあなたが私のような人なら、そうだと思いますが、自分をイエスのようにするというのは、とて
も無理な注文です。やるべきことが山ほどあります。時間がかかります。ええ、わかっています。忙しくな
りそうですね。なぜなら主は、粘土を扱う陶器師のように、その粘土を手に取り、形作り、美しい作品、
職人技に達するためのプロセスを始められるからです。その仕事を始めたご忠実なお方は、それを完成
させることにもご忠実です。私たちは主の作品です。原文では、興味深い言葉で、英語の”poem”, poema,
work of art (芸術作品) の語源にもなっています。私たちは主の芸術作品です。しかし、主は私たちをイ

エスのようにしたい、イエス・キリストのイメージに合せたいと思っておられるので、これを芸術作品にするために多くの作業をされます。

陶器師は、粘土を手に取り、形作り、不要な物を取り除くプロセスを始められ、粘土を轆轤（ろくろ）の上に置き、超高速で回転させます。これは、まるで先週の私の一週間のようです。皆さんもそうでしょうか？ そして、ろくろの上にある粘土に、手をズバツと入れ、形を作り始められるのです。直ぐではないですが、最後にろくろが停止します。「主よ～、ありがとうございます。」「いや、まだ終わってないのだよ。」皆さんをろくろから外し、その名も相応しい、kiln/窯の中に移されます。それは炉です。とても熱いです。しかし、それは必要なことなのです。イザヤが言うように、主は私たちが磨くために苦難の炉を選ばれるからです。そうでなければいいのですが。私は、苦難の炉で私を磨く代わりに、オアフ島のビーチで私を磨いてほしいです。主よ、私を磨いてください。そうは行きません。違います。それは、苦悩の炉なのです。そして、そのプロセスが終わると、主は、その作品を炉から取り出されます。主は、仕上げを始められます。最終仕上げです。華麗な着色。そして、すべてが終わったとき、主が何をされるか知っていますか？ 主は、その上にご自分のお名前を付けられます。所有者としてのお名前です。どんな芸術作品でもそうですが、アーティストの名前が入っていますよね。これは私たちの文化で失われたものです。あまり突っ込みたくありませんが、アロンの祝福を思い浮かべてみてください。よく知られている、民数記 6 章です。

「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」（民数記 6 章 24～26 節）

しかし神がモーセに、アロンに命じて、イスラエル人が集会の天幕にいるときには毎回時には日に 1 度以上、何をイスラエル人に言うように仰ったのか知っていますか？ 彼らは集会の天幕に入るたびに、宣告されるその祝福を聞きました。そして、その祝福が彼らに宣告された後、アロンは彼らに、こう言うように命じられました。"わたしの名を彼らの上に置く"。(民数記 6:27 参照) アラブの文化では、これは重大なことです。私が子どもの頃、母はアラビア語でこう言っていました。私は変えましたが、基本的にはこんな感じです。「エーサム・ヤスル・アレイク」母が言っていたのは、「神の御名、あるいはイエスの名があなたの上にありますように」でした。で、その名前が何かは知ってますよね？ 名は性質を表します。主は、私たちが彼に似せて造られるのです。なぜでしょうか？ お～ 神は、私たちに多くの投資をしておられますよね？ 神が、私たちを買い取られるために、いくらかかったか知っていますか？ 私たちは自分のものではありません。私たちは、代価を払って、買い取られた者なのです。そのため、主はすべてを犠牲にされました。主は、自分の命で支払われました。私たちの代わりに、主の血が流されたのです。人のために命を捨てること以上に、大きな愛はありません。(ヨハネ 15:13 参照)

ちょっと考えてみて下さい。彼が、あなたの苦難を気に留められないと思いますか？ 私たちは、それを大切にしないのですか？ 私たちは、それを軽視するのですか？ 私たちは、それを無視するのですか？ どうりで、火が消えても不思議ではありません。かつてのように、主のために燃えていないのも不思議ではありません。どうりで、御言葉の中に入っていき情熱がないわけです。祈りの時間を大切にしたいと思わないのも、不思議ではありません。それは義務ではなく、特権なのです。想像できますか？ 私は、世の親として知っています。想像できますか？ 子どもたちがあなたの傍に寄ってきて、「ああ～今日は、一日一緒にいなければならぬのか～」などと言ったら？ 「気にしないでいいよ。そんな必要ないよ。あ～、そうなるわけね!？」[笑] 一緒にいないといけないのか、ですって？ ちょっとはつきりさせ

てください。私は正当な理由があって、大げさに表現しているのですが、その理由がおわかりいただけるとと思います。神は、私をとて愛しておられ、ひとり子を送って私のために死なせられました。彼を信じれば、私は滅びることなく、永遠の命を持つのです。(ヨハネ 3:16 参照)

なのに、彼と過ごす時間を作らなければならないのか、ですか？ お～ それは神の心をどれほど悲しませることでしょうか。それは特権なのです。義務ではありません。

最後にもう1つ、それから2つ目に移ります。方法があります。これに織り込まれているような感じです。もし私がこれを伝えないなら、非常にうかつだと思います。ですから、お話ししましょう。もしかしたら今日ここに居る方で、率直に言って、「ええ、私は何か放浪している感じです」「墮落していて、私はそのような人間です。つまり、おっくうなんです。私は朝早く起きて、主を求めませんし、御言葉の中に浸り、主との時間を過ごし、祈りたいという燃えるような情熱もありません。つまり、私がそうするとき、実際には特権ではなく、義務なのです。どうすれば元に戻せますか…？」あ～！ 「ヨハネの黙示録2章」のエペソ人の教会です。彼らは失ったのではなく、初めの愛から”離れて”しまった。(黙示録2:4 参照) 無視し、軽視し、初めの愛から離れていきました。そしてイエスが、ヨハネに彼らへ手紙を書かせられ、こう仰っています。これが、もとに戻る方法だと。「もとに戻りたいですか？」—はい！ 「初めの愛に戻りなさい。」どうやって？ 「初めの行いをしなさい。」どういうことですか？ 「初めにうまくいったことを行う。」「ああ…そんな気持ちにならないんだ。」いいえ、これは気持ちの上での歩みではありません。これは信仰の歩みです。ネタバレになります。信仰はどのようにして生まれるのですか？ 聞くことによって、神の御言葉を聞くことによってです。私がどこへ向かっているか、分かりますか？ それを行いなさい。気持ちは後から付いてきます。初めにうまくいったことをやるのです。初めて恋をした時のことを覚えていますか？ ああ、なんということでしょう。男性の皆さん、奥さんのためにドアを開けてましたね。少なくとも最初の一週間だけでも、その後ほとんどの場合、そうですね？ その後、どのくらいでこのようになったのでしょうか？ 「早く乗れ！遅れるぞ！何してるんだ?!」—一笑— 初めの行い、初恋の人に初めにしたことを、行いなさい。いやあ、すごいですね。神の御言葉の権威に基づいてだけではなく、私自身の個人的な、私が元に戻った時の経験から、こう言えます。それは悔い改めであり、180度方向を変えることです。それは、戻ること、繰り返すことなのです。初めの行いを繰り返すことです。私たちが墮落してしまいやすく、彷徨ってしまいやすい。

2つ目の理由は、「主から目を離してしまうから」です。これは、当たり前のように聞こえることは分かっています。主から目を離してしまうことについて、多くの説教がなされてきました。確かに、ペテロがそのような説教の対象になっています。私もそのうちのいくつかを説教しました。彼は、ガリラヤ湖の真ん中にいました。嵐の中、危険な嵐、命の危険にさらされた嵐のただ中にいました。そして、ここでイエスが現れて。

そして、彼らは水の上を歩いてくる人は誰なのかと、さらに恐れています。幽霊なのではないかと。

(マタイ 14:26 参照)

それが誰であろうと、命に関わるような嵐の中にいることよりも、彼らはさらに恐れているのです。

そして、皆さんはこれを知っていてこれを聞いたことがあるでしょう。そして多くの人がこれを説いてきました。ここにペテロがいて、それが主であると気付くと、彼はこう言います。

「私に來なさいと命じてください。」(マタイ 14:28 参照)

翻訳すると、「私も水の上を歩きたいです！」私もやってしまったことですが、多くの人が天国でペテロ

に謝らなければならないと思います。その列の先頭に立つのは私です。しかし、考えてみてください。他の弟子たちは誰も、そんなことは言いませんでした。彼はイエスにこう言います。「あなたのところへ行かせてください。水の上を歩いてみたいのです。」イエスは何と仰いましたか？「あなたはおかしいのですか？！」いいえ、そんなことは仰っていませんよ。彼は「来なさい。」と仰いました。ペテロはどうしますか？彼は来たのです。彼はその船から降りて、ところで、嵐はまだ続いています。ここではまだ嵐が続いています。彼は船から降りて、嵐の中に足を踏み出し、水の上を歩いているのです。さて、その結末はご存知の通りです。ペテロは、水の上を歩いていたのに、主から目を離したとたんに沈み始めたことが物語の中で詳しく語られています。私の息子、リヴァイが、今は夏休みで帰ってきています。このことについて話していました。ここでの教訓は確かに明確です。つまり、彼が主から目を離さなかったなら沈んで溺れ始めることはなかったという教訓がここには明確にあるのです。しかし、質問がありますなぜ、彼は主から目を離したのでしょうか？このように聞いた方がいいかもしれません。何が、彼の目を主から離したのでしょうか？皆さん、それが何だったかご存知ですね。嵐のせいです。そして、彼が主から目を離すやいなや、ブーン！と沈んでいきます。お聞きください。私がこれが好きなんです、ペテロは、3語で祈ります。

「主よ、私をお救いください。=Lord, Save Me」

そして、イエスはそれに答えてくださいます。大きな励みになります。神は3語の祈りに答えてくださるのです。ある人が言うように、祈りは、長さの問題ではありません。祈りの強さなのです。それ（長さ）の問題は、説教には当てはまりませんからね。[笑]それで、彼は沈み始め、主が手を差し伸べて、彼を引き上げられます。しかし、ここからが本番です。ここで私たちが見ているの内容は、考えてみてください。何かが、誰かが、自分たちの注目を集めるために競争し、騒いでいる。そしてそれがうまく行くと、その時主から目を話してしまい、それが何であれそれに目を向けます。だからこそ、ヘブル人への手紙の著者は、このようなことを指摘しているのだと思います。私たちの目をイエスに向けるために。私たちにはそれが見えません。しかし、私たちにはイエスが見えるのです。私たちの目をイエスに向ける。イエスは全人類の上にあります。イエスはすべての御使いの上におられるのです。それが私の見つめるお方です。作者であり、私の信仰の完成者であるこの方に目を向けるのです。

今朝、ここに来る前にロトのことを考えていました。実は私、創世記に戻って、その記述を読んで、記憶を新たにしました。ロトとアブラハムが、別れることになります。アブラハムは基本的にロトに最初の選択肢を与えます。これは興味深い記述であり、物語の中に理由があるのです。ロトは、その目でソドムを見ました。彼は、繁栄と街がキラキラしているのを見たのです。彼は、「そこに行きたい。」と言い、そうしました。本当に面白いことですが、私たちと一緒にいた人たちにとっては、本当に興味深いのは、何年も前におられた方は、学びましたね。ロトの人生についての魅力的な学びです。彼は始めにソドムの近くに天幕を張りました。ソドムとゴモラが裁かれる頃に、彼がどこにいるか知っていますか？ソドムの近くの天幕にはいません。彼はソドムの町の中心にいます。その仕組みが面白いのです。すべての始まりは、どこに私たちが目を固定するかで決まります。皆さん、私たちの賛美チームが、時代を超えた古典的な賛美歌を演奏するのが大好きです。実際、私はカポノにもう一度やってほしいと頼みました。彼は預言・アップデートの後にしてくれました。私が望むなら、と言ってくれたのです。私は「いや、主のお導きのままに。」と答えました。参考までにですが、彼はこう言ってくれました。「それは主の導きです。」締めくくりの曲が何になるのか知っているのは、とても適切だと思います。『イエス・キリストに目を

向けなさい。彼の素晴らしい御顔をしっかりと見るのです。そうすれば、彼の栄光と恵みの光で地球上のものは奇妙に薄暗くなる。』皆さんお許しいただきたいのですが、これは両方に作用します。私は、この美しい素晴らしい讃美歌を損なわせるつもりはありません。しかし、このように考えてみてください。

もし、それが『世界に目を向けなさい』だったとしたら？ 欲望のすべてにしっかりと目を向けるのです。そして、神のものが妙に暗くなり、主の栄光と恵みの光が見えなくなるのです。』時おり、自分のクリスチャンとしての人生を振り返ってみるといいと思います。「誰に、何に、私は目を置いているのだろうか？」と。これが最後です。私たちは、主からコントロールをしていただくことです。残りの時間をこれに費やしたいと思います。これは 10 節から 18 節までの内容で、その理由は、ヘブル人への手紙の著者が別の興味深い言葉を使っています。「先駆者」という言葉です。翻訳によっては、"キャプテン=captain"と表現しています。彼は私たちの救いの先駆者であり、救いのキャプテンです。原語では創設者、隊長、開拓者という意味があります。その意味を知っていますか？ それは、彼がこの船のキャプテンだということです。あなたではありません。彼が先駆者です。彼が操縦されているのです。彼は、私の永遠の運命の船長です。彼に任せてください。でも、それが問題なんですよ。自分の気持ちに正直になりましょう。問題は、私たちが自分でコントロールしたいということです。自分がコントロールしたいのです。恐怖心を抱くのは、自分がコントロールできないと感じたときではないでしょうか。結果をコントロールできないと感じたときに、恐怖心が芽生えます。

「ああ、なんてこった！コントロールできない（操縦不可）なんて！！」うわお～。主を信じるしかないかもしれませんね。斬新なアイデアだとは思いますが。

「私には、これはコントロールできません！」

「私がコントロールしたいのです。運転席に座っていただきたいのです。」

「私は自分でコントロールしたいのです。なぜなら、自分で結果を決めることができるから。私が結果をコントロールしているのです。」

つまり、神がコントロールされているという話になると、私たちは非常に、決まり文句のように「神がコントロールしておられる。」と言い、「分かってる！！！」となります。[笑] でしょう？ 彼がコントロールされていることはわかっています。それが問題なのではありません。問題は、自分がコントロールしたいと思っていることです。アブラハムとサラを考えてみてください。私はよく、このかわいい夫婦のことを考え、天国で会えるのが待ち遠しいです。皆さん、彼は 100 歳で、サラは 90 歳です。ついに彼女は、生物学的に、奇跡的にイサクを出産します。しかし問題は、サラがその問題を、自分でコントロールするのを決めたことでした。この問題を自分の手で解決しようとしてしました。そうして、イシュマエルが生まれたのです。肉のひな形です。今日に至るまで、中東で言いようのない紛争の原因となっています。それは、彼女が神からのコントロールを取りあげたからです。本当にその通りでした。彼らが一緒に祈っていたときの献身的な生活を想像できますか？それは、彼らが祈ることを前提としています。

アブラハムはこんな感じだったでしょう。「愛しい人。一緒に祈りましょう。」サラは、「いいえ。それは古い祈りです。私はもう諦めました。」「違うよ。神は私に、息子が生まれると仰ったんだ。その子から、私たちの子孫の数が増えていくことになるのだ。数えきれないほど、海辺の砂のように、空の星のように、無数の子孫が生まれるんだ。」(創世記 22:16 参照)

「あなた、私は祈るのはやめたのよ。」つまり、考えてみてください。「今はもう遅いのです。あなたを愛していますが、子宮はとっくに閉経しています。方法はありません。」「違うよ。だって神はそれをなさる

と私に仰ったんだ。」「神は、ちょっと時間をかけ過ぎじゃないの？」「でも彼はそうされると仰ったんだ。彼は約束されたんだ。だから彼はそうなさる。」仮に彼女が 89 歳で、彼が 99 歳だとします。主のクリストファーニー：ベツレヘム以前の、イエスご自身の出現です。イエスが、アブラハムのところへ来られて、アブラハムに言われ、アブラハムはそれを知って。実はだからこそ、アブラハムはひれ伏して彼を崇拜するわけです。それがただの御使いだったらなら、御使いが崇拜されることはありません。それは主でした。彼はひれ伏し、そして主を崇拜します。旧約聖書の中で繰り返されているのは、これは別の機会の別のトピックですが、これらの出現全てが、キリスト・イエスです。これはそのうちの一つです。彼はアブラハムに仰います。「さあ、ショーの始まりです。」と。これは非常に緩い翻訳です。しかし、皆さんその意味はお分かりだと思います。主はこう仰います。

「今日から一年後、あなたには息子が生まれます。」

その何が魅力的かわかりますか？ アブラハムは天幕の外への視線の先に当時、12 歳か 13 歳くらいだった、イシュマエルを見ていたのでしょう。私がアブラハムならば、

「あーあ。私たちには（イシュマエルがいる）、」「気にすることはありません。」

私が知っているのは、主に従い、彼がイサクを生け贄にするために、モリヤ山に連れて行った時のことです。神は彼のところに来て、仰いました。

「あなたの息子、あなたの独り子の息子を連れて行きなさい。」

彼は神と議論して言います。

「イシュマエルはどうなのですか？」

神はイシュマエルを認めておられません。（あなたの独り子、息子は）イサクなのです。

ところで、イサクはキリストの予型です。また別の、興味深い研究ですが。皆さん、日曜学校に通ってらっしゃったとき、フランネル・グラフ（パネルシアター）があって、イサクは小さな赤ちゃんでしたね。それを台無しにしてしまって申し訳ありません。それは彼が、33 歳の時の話なのです。彼がモリヤ山に連れて行かれたときです。彼はキリストの予型です。イエスが十字架にかけられたときと同じ年齢です。因みに、同じ山での話です。皆さんの日曜学校の授業を台無しにしてしまいましたね。しかし、私たちはそのことを聖書から知っています。では、何が要点なのでしょう？ 要点はこうです。

私たちは、自分がコントロールしなければならないという旗印のもとに、自分の手で問題を解決しようとする時に大きな誤りを犯します。私たちには不可能だからです神はコントロールされる唯一のお方です。そして、その時に起こることが以下の通りです。私たちは自分の状況をコントロールし、それを解決しようとしています。自分の肉の力で解決しようとする、どうなるのでしょうか？ 私たちは自分自身で問題を作りだし、それを混乱させます。神は私たちに強制なさらないのです。

「あなたは私にこれをさせてくれますか？」「いいえ、神様！私に任せてください！」「そうですか。わかりました。また胎児のようにうづくまったら教えてください。私はそこにいます。」

彼は決して、私たちに強要されることはありません。彼が神であるがゆえ、コントロールなさいます。私たちには、何か 苦勞して学ばなければならないことがあるんですね。簡単な方法があるのです。それはどのようなものなのでしょうか？ それがどんなものか知っていたら、教えてもらえませんか？ 私にはどのようなものかわからないからです。そして、難しい方法があります。私は何か知っています。苦勞して学んだことですから。

このように締めくくらせていただきます。神はあなたに、あなたが望む以上に、神との親密な関係を望

んでおられます。神は、私たちのクリスチャン生活の中で、常にそのような環境を整えてくださいます。主は、常に状況を整理し、歩みを導き、私たちが主に向き、近づくようにしてくださいます。そして、しばしば、彼は正し、向き直させ、訓戒し、躡けなければなりません。嫌ですけどね。でもそれが良いのです。あえて言えば、クリスチャン人生の中で、大変辛く、難しく、大変だった時期を思い返してみてください。そんな経験は二度としたくないような。敢えて言えば、その経験の中で、神があなたの人生になさったことは、決して何物にも変えられないでしょう。それは、あなたが主と最も親密な時間ではありませんでしたか？ どれほど主と親密だったかという懐かしい記憶ではないでしょうか。主にとってはどうかを想像してみてください。

「私はあなたとこの関係を持ちたいのです。でも、あなたはこれらの事で忙しそうにしていますね。私はあなたの注意を引く必要があります。」

ああ～どなたかの心に響いたようですね。そして、主があなたの注意を引かれる時は、こんな風ではありません。

「さあ、君の気を引くぞ！！こっちへおいで、坊や！」

それってあなたの地上の父です。天の御父ではありません。どちらかという、こうですね。(囁く声)

「あなたの注意を引きました。私たちは話をする必要があるのです。」(囁く声)

「一緒に過ごしましょう。私はあなたをととても愛しています。」(囁く声)

「いくつかあなたに見せたいものがあります。」(囁く声)

「見せられないのは、あなたが忙しすぎて気が散ってしまうからです。」(囁く声)

「私はあなたに伝えたいことがあるのです。」(囁く声)

「私が伝えたいことを、あなたが知って入れさえいけば、でも、それができないのは、あなたの人生の音量が大きすぎて、あなたは私の声を聞くことができないからです。なぜなら、私が話すときは、あなたの人生におけるそれらの音量と競争するつもりはありません。私が話すときは、静かで小さな声で話します。聖霊の声です。そしてあなたは私の声を聞くことができないのです。」

高校の時の先生が、この言葉で最後に締めくくりたいと思います。ボウマン先生と仰います。10年ぶりの同窓会で、私は実際、彼に伝えることができました。私は彼を、多くの説教の例えに使わせてもらいました、と。彼は、それをどう受け止めればいいのか分からなかったようです。しかし、彼はモノトーンの人でした。とても物腰の柔らかい先生だったんです。その先生の初めての授業の日、私たちは騒いでいてもちろん自慢できることではありませんが、私はその中でも最前列にいました。彼は教室に入ってくると、モノトーンの優しい声で仰いました。「よろしい。落ち着いて、席に座りなさい。」そして、彼はただ進められます。私はこう思いました。

「おい！！！！大きな声でしゃべってくれー！！聞こえないよ！」

それに対して、彼はこう仰います。

「いいえ。あなたが静かにしなさい。私の話を聞きたければ。」

うわお～それが、私にとっての非常に長い学校生活の始まりでした。[笑] 私はいつも考えています。それが主なのです。私は自分のために言っているだけかもしれませんが、それはそれで構いませんが、でも、私の人生はとても騒々しいのです。主がこう仰っているようなものです。

「私はそれに対抗するつもりはありません。あなたと話がしたいのです。あなたに伝えたいことがたくさんあるのです。でもあなたが聞くためには、静かにしなければなりません。私は叫んだりはしませんか

ら。叫ぶつもりはありません。』

ご起立ください。賛美チームは上がってきてください。祈りと賛美で締めくくります。締めくくりの曲が何の曲になるのか、皆さんには想像もつかないと思います。一笑 賛美チームの皆さん、あの曲をやってくれてありがとう。私はこの曲がとても好きです。

愛する天のお父様。主よ、私たちはあなたをととても愛しています。そして、あなたに感謝します。主よ、私たちへのあなたの御言葉、私たちに対するあなたの愛に、私たちと一緒にいたいと願って下さっていることに感謝します。主よ、ここにおられる方、オンラインで見ているかもしれない方のために祈ります。情熱の火が冷めて、今にも消えてしまいそうなのです。主よ、あなたが再燃させてくださるよう祈ります。あなただけがお出来になる方法で、あの火を、あの情熱を再燃させてくださいますように。主よ、私たちがあなたに近づけば、あなたは、私たちに近づいてくださるのです。(ヤコブ 4:8 参照)
イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7